

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	いもち病（穂いもち）		並
	紋枯病	やや少	並
	縞葉枯病	並	並
	トビイロウンカ（防除情報第9号）	やや多	やや多
	コブノメイガ	並	並
	穂吸汁性カメムシ類（防除情報第10号）	やや多	やや多
大豆	ハスモンヨトウ	並	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ）（防除情報第11号）	並	並
	輪斑病	やや多	やや多
	ハダニ類	並	並
	ハスモンヨトウ	並	並
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	やや少	やや少
	黒点病	やや多	やや多
	ミカンハダニ	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
びわ	がんしゅ病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	果樹カメムシ類（技術情報第3号）	並	並
茶	炭疽病	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	クワシロカイガラムシ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（91筆）の結果、葉いもちの発病株率は0.3%（1.1%）、発生圃場率は13.2%（13.3%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった（発病株率 0.5%）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が認められる圃場では穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。

イ 追肥を行う場合は、過剰にならないよう適正量を施肥する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(91筆)の結果、発病株率は0.4%(1.8%)、発生圃場率は15.4%(23.7%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は5.0%(5.4%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(91筆)の結果、発病株率は0.3%(0.3%)、発生圃場率は27.5%(20.6%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発病株率 0.0%)。

ウ 8月上旬の巡回調査(91筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.2頭(0.3頭)、発生圃場率は84.6%(49.1%)であった。

エ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、普通期、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.04頭(0.1頭)、寄生株率は4.0%(10.0%)であった。

4. トビイロウンカ

平成22年8月18日付け病害虫発生予察防除情報第9号による。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(91筆)の結果、食害株率は11.2%(13.8%)、発生圃場率は73.6%(81.0%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、食害株率は10.0%(32.8%)であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

平成22年8月18日付け病害虫発生予察防除情報第10号による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(9筆)の結果、幼虫の寄生株率は5.8%(4.8%)、株当たり虫数は0.1頭(0.8頭)、白変葉発生圃場率は55.6%(49.5%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(幼虫の寄生株率3.4%、株当たり虫数0.31頭)。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並~やや多の状況で推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発

生に好適である。

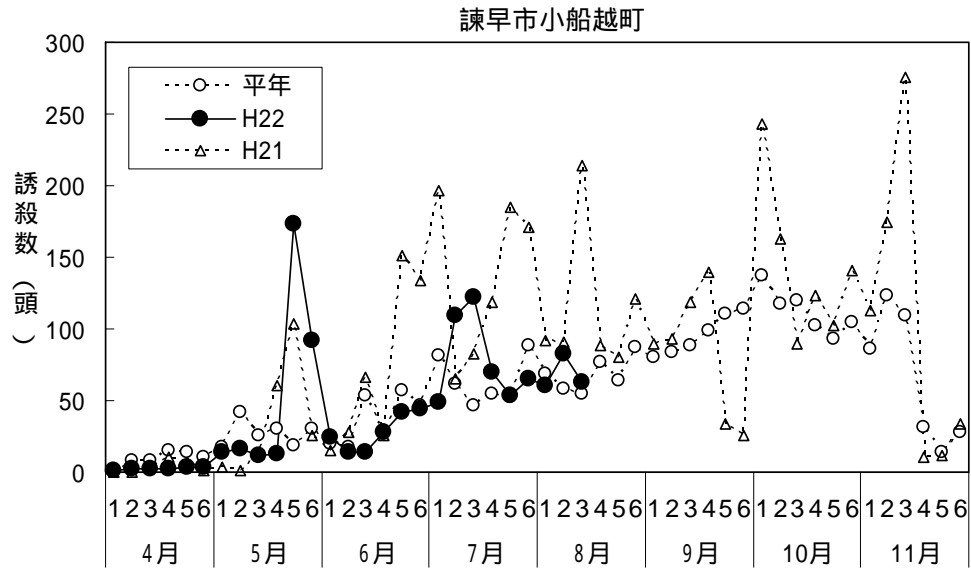


図 ハスモンヨウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市) (月・半旬)
 平年:H12~H21年の平均値(最大・小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容
 発生程度 並

(2) 予報の根拠
 8月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率4.1%、発病株率0.2%)。

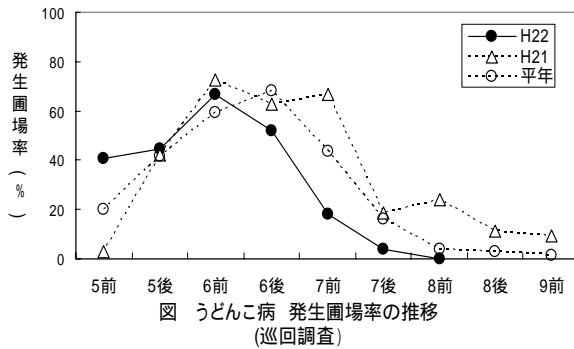


図 うどんこ病 発生圃場率の推移 (巡回調査)

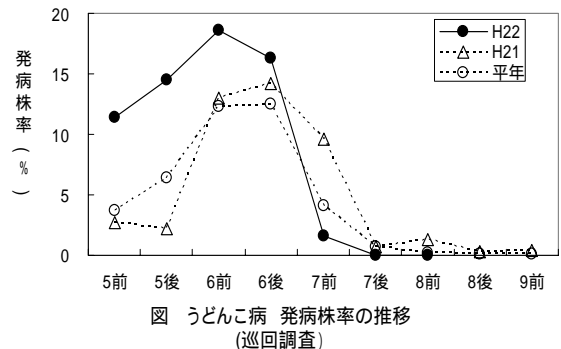


図 うどんこ病 発病株率の推移 (巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布は、薬液が葉裏、葉柄に十分かかるように散布する。
- イ 除去した茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 薬剤耐性菌発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。
- エ 炭疽病対策として、雨よけ育苗をおこなっている場合は、うどんこ病が発生しやすいので、注意する。
- オ 夜冷・株冷処理を行なう場合は、入庫前の防除を徹底する。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は14.3%(6.1%)、発生圃場率は63.0%(30.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 被害葉は伝染源となるため栽培上支障のない範囲で除去する。また、除去した被害葉は圃場周辺に放置しない。

イ 肥料不足は発病を助長するので留意する。

ウ 過湿条件は発病を助長するので、密植を避け、通風を良くする。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は5.4%(4.5%)、発生圃場率は37.0%(23.2%)であった。

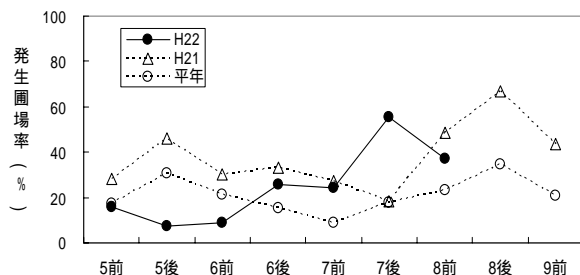


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

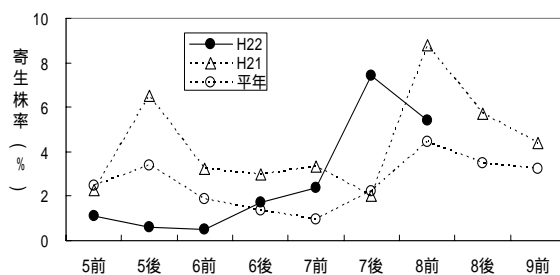


図 ハダニ類 寄生株率の推移(巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は散布むらがおこらないように、葉裏まで付着するように十分量を丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

ウ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるものがあるので、使用時期に注意する。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は2.0%(2.3%)、発生圃場率は33.3%(38.4%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年並~やや多で推移している(大豆の項参照)。

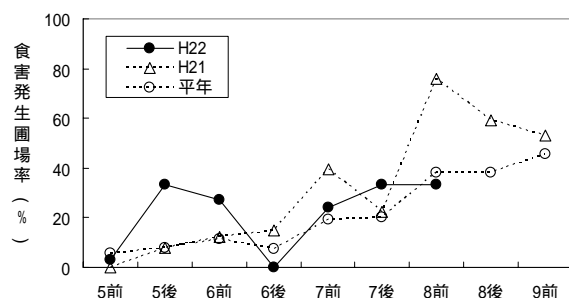


図 ハスモンヨトウ発生圃場率の推移

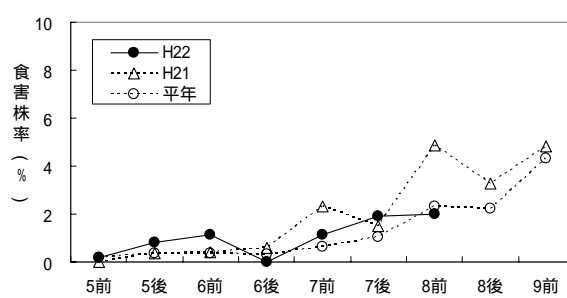


図 ハスモンヨトウ食害株率の推移

アスパラガス

1. アザミウマ類

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は11.7頭(過去3カ年平均9.7頭)、発生圃場率は77.8%であった(過去3カ年平均70.4%)。

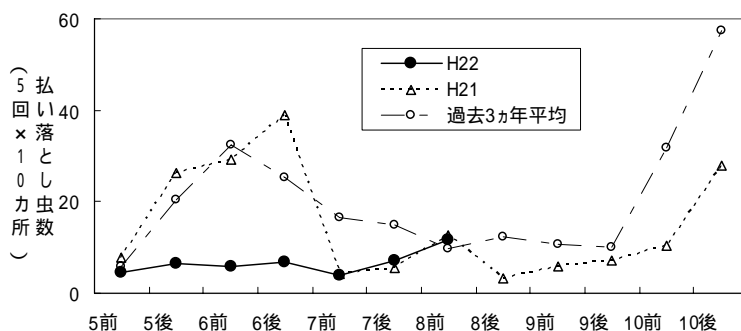


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

- (1) 予報内容
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.5%)、発生圃場率は2.6%(19.9%)、発病果率は0.5%(0.3%)、発生圃場率は12.8%(8.6%)であった。

2. 黒点病

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は17.4%(5.7%)、発生圃場率は69.2%(37.5%)であった。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は26.3%(12.9%)、発生圃場率は74.4%(59.3%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。

イ 薬剤抵抗性発達のおそれがあるので、各薬剤の使用は年1回とする。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果率は0.6%(1.5%)、発生圃場率は10.3%(23.7%)、果頂部の被害果率は0.3%(1.2%)、発生圃場率は10.3%(13.8%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。

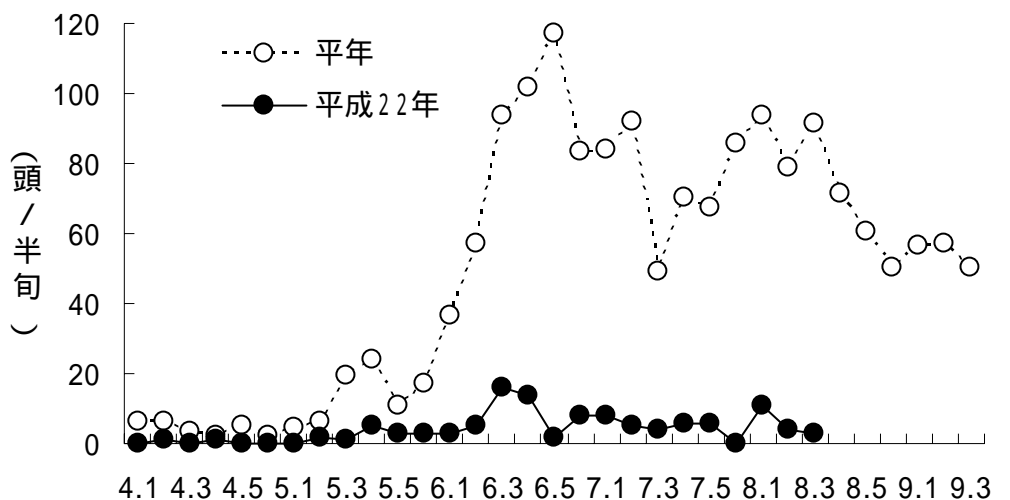


図 チャノキロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い圃場では、1果当たりの寄生虫数が0.3~0.5頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

アメダス地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津
第6世代 (平年)	8 / 20 (8 / 25)	8 / 22 (8 / 29)	9 / 3 (9 / 5)	8 / 20 (8 / 27)
第7世代 (平年)	9 / 7 (9 / 13)	9 / 10 (9 / 17)	9 / 25 (9 / 28)	9 / 7 (9 / 15)
標高(m)	27	4	43	10

注1: 使用する気温データには各地域のアメダスデータを利用し、平成22年8月17日時点で予測した。

注2: 山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.8%(4.8%)、発生圃場率は40.0%(60.0%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、被害枝葉率は0.5%(0.1%)、発生圃場率は30.0%(6.3%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、6月5半旬~8月1半旬は少なかったが、8月2半旬以降は平年並に推移している(図)。

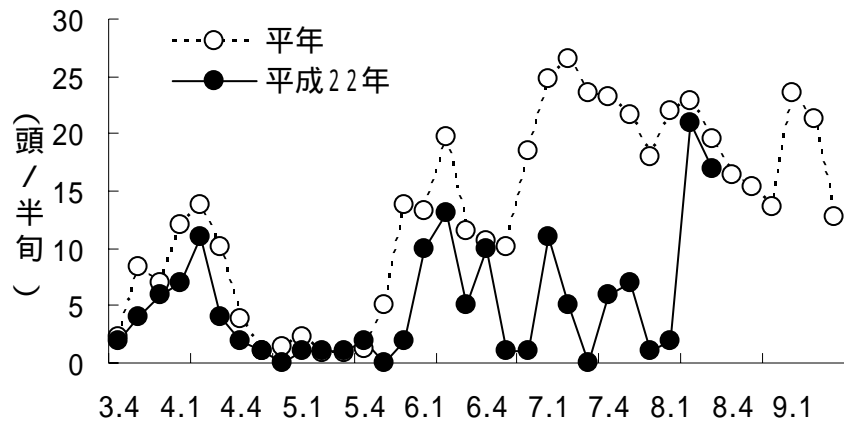


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

果樹共通

1. カメムシ類

平成22年8月18日付病害虫発生予察技術情報第3号による。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は8.3枚(3.1枚)、発生圃場率は50.0%(52.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

翌年の一番茶葉への感染を防ぐため、秋芽開葉期に防除を行う。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は28.9頭(14.7頭)、発生圃場率は100%(72.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

秋芽の充実を図るため、秋芽開葉期に防除を行う。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.2枚)、発生圃場率は31.3%(16.0%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は7月6半旬以降、平年より少なく推移している(図)。

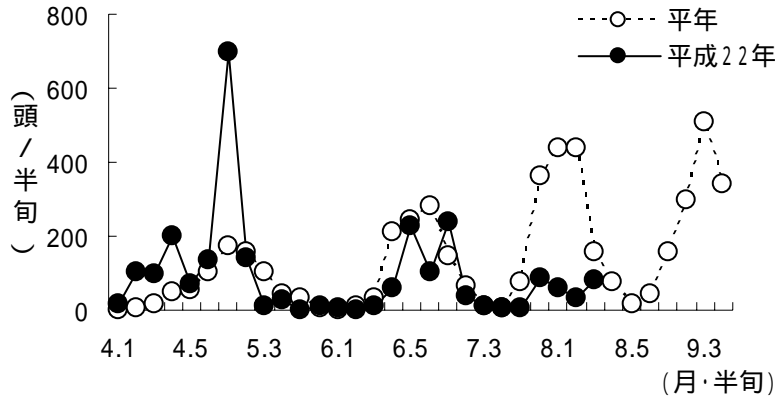


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.2枚(0.2枚)、発生圃場率は18.8%(14.1%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は8月1半旬以降、平年よりやや少なく推移している(図)。

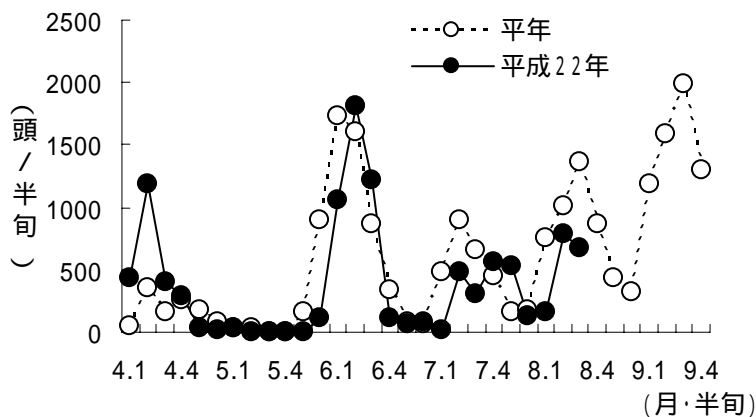


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.9%(0.3%)、発生圃場率は31.3%(9.4%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達のおそれがあるので、各薬剤の使用は年1回とする。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は2.4頭(1.8頭)、発生圃場率は56.3%(48.8%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は0.7%(5.7%)、発生圃場率は18.8%(32.7%)であった。

【参考】
気象

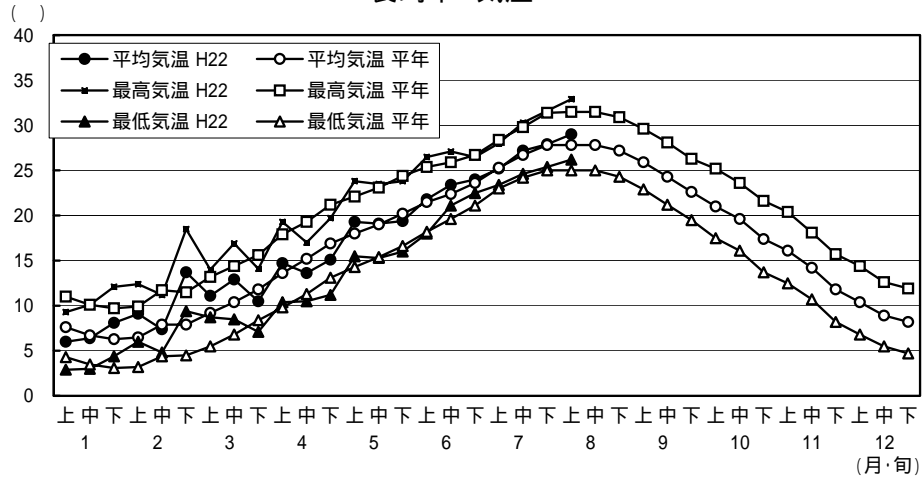
(平成22年8月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

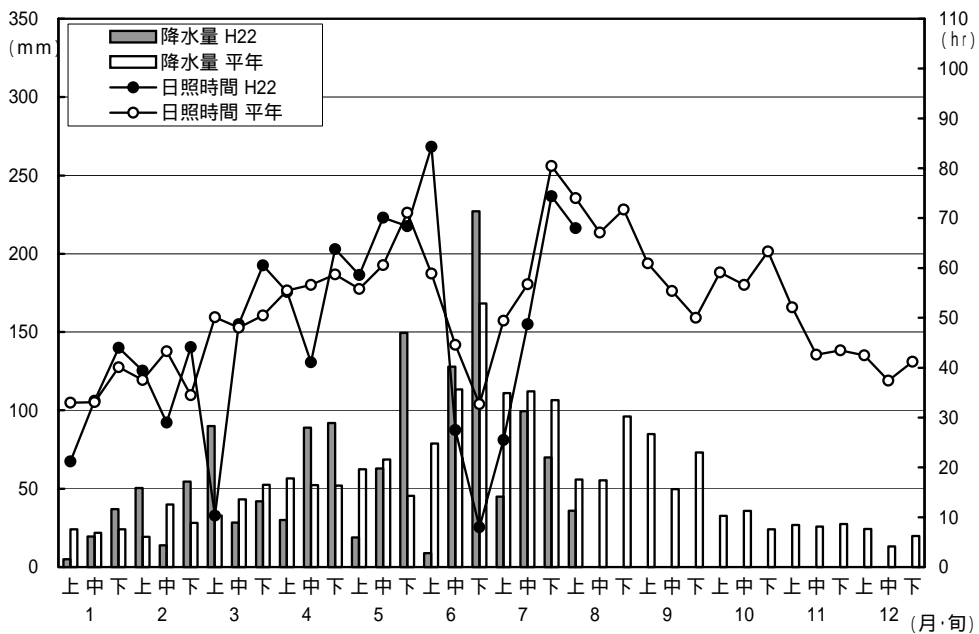
予報対象地域：九州北部地域

平成22年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027